

第 22 回国際科学技術関係大臣会合について

“The 22nd Science and Technology Ministers’ Roundtable”

1. 日時：令和 7 年（2025 年）10 月 5 日（日） 12:10～14:50
2. 場所：国立京都国際会館 アネックスホール
3. 出席者：世界 15 ヶ国の科学技術大臣等（日本を含む：別紙参照）
4. テーマ：未来社会を見据えた科学技術・イノベーション
5. 結果概要：
 - （1）城内科学技術政策担当大臣が会議の議長を務めた。冒頭、城内大臣から出席各国に対し挨拶を行い、気候変動問題等のグローバルな課題への解決や、生成 AI などの先端技術の適切な社会実装を進めていくためには、国際連携が不可欠である旨、発言した。そして、本会合においては、「未来社会を見据えた科学技術イノベーション」をテーマに、各国が描いているあるべき未来の姿、またその実現のための科学技術・イノベーションの活用、また、国境を越えた未来社会の実現へ向けた連携の在り方について意見交換したい旨、説明した。
 - （2）小宮山 STS フォーラム理事長からの挨拶の後、福永科学技術・イノベーション推進事務局統括官より、本会合のテーマの背景と概要等以下を紹介した。
 - 世界が前例のない速さで変化する中で複合的な社会課題が生じており、先端技術による科学技術・イノベーションが、課題解決や未来構想の手段となり得ること
 - こうした中で、日本では目指すべき未来社会像として「Society 5.0」を掲げ、その実現のため「ムーンショット型研究開発制度」等に取り組んでいること
 - AI の急速な発展により様々な社会変革がもたらされており、それに伴う新たな課題に対応するため、日本では「広島 AI プロセス」や「AI 法」などの取組を進めていること
 - （3）宮園総合科学技術・イノベーション会議議員による進行のもと、本会合のテーマに沿って、出席国における取組等について意見交換が行われた。先端技術、特に AI の発展には国際的な規制の枠組みや倫理とイノベーション促進のバランスが重要であることや、科学者と市民の双方向コミュニケーションや科学リテラシーの向上を通じた科学への信頼の再構築が重要であることなど、

持続可能で包摂的な未来社会の実現に向けた科学技術・イノベーションの重要性が共有された。

(4) 宮園総合科学技術・イノベーション会議議員から意見交換の総括が行われた。

(5) 最後に城内大臣から閉会挨拶が行われた。

(別紙)

第 22 回国際科学技術関係大臣会合出席者一覧
2025 年 10 月 5 日 (日) 12:10-14:50 (日本時間)

No.	国	氏名	役職
1	オーストラリア 連邦	トニー・ヘイメット	産業・科学・資源省 首席科学官
2	カナダ	モナ・ネマ	首席科学顧問
3	欧州連合	エカテリーナ・ザハリエヴァ	欧州委員 (スタートアップ・研究・イノベーション担当)
4	イラン・イスラム 共和国	ホセイン・シマエ・サラフ	科学・研究・技術大臣
5	マレーシア	ハスノル・ザムザム・ビン・ハジ・アフマド	科学技術イノベーション省事務次官
6	モンテネグロ	アンジェラ・ヤクシッチ・ストヤノヴィッチ	教育・科学・イノベーション大臣
7	日本	城内 実	内閣府特命担当大臣 (科学技術政策担当)
8	モザンビーク 共和国	アメリコ・ムチャンガ	通信・デジタル変革大臣
9	オランダ王国	フェイト・ホフマン	教育・文化・科学副大臣
10	ニュージーランド	ジョン・ロッシュ	首相官邸・内閣府/一次産業省 首席科学顧問
11	ポーランド 共和国	マルチン・クラセック	科学・高等教育大臣
12	スリランカ 民主社会主義 共和国	ハンドゥネッティゲ・タイロン・クリシャ ンタ・シルヴァ・アベイセナ	科学技術大臣
13	スイス連邦	ヒラヤマ・マルティナ	教育・研究・イノベーション省 国務長官
14	ウガンダ 共和国	モニカ・ムセネロ・マサンザ	科学技術・イノベーション大臣
15	英国	アンジェラ・マクリーン	首席科学顧問

※氏名・役職名は仮訳